

[The Journal of Geobotany, 25, 100 (1978)]

Phytosociological Studies on the Communities of *Taxus cuspidata* SIEB. et Zucc.

MIZUO MIZUNO, TOSHIHIRO TANAKA, HIROKO FUKUHARA,
TOSHIHIKO KOYA, KENJI YAMAZOE*

イチイ群落の植物社会学的研究

水野瑞夫, 田中俊弘, 福原裕子, 甲谷俊彦, 山添賢治*

岐阜県にはイチイ自生地が2ヶ所(大野郡高根村日和田および小日和田)のみ見られる。それらについて植物社会学的に検討し, また北海道の自生地と比較をした。

いずれのイチイ自生地も扇状地—山腹に見られ周囲はカラマツの植林が行われている。イチイは日和田神社, 森越八幡神社の境内に保護されつつ残ったものである(標高約1,300m)。

植物社会学的な検討からブナ=ミズナラクラスおよび土地の極相のヒメコマツオールドルに位置すると思われるが構成植物の性格が不明瞭のためイチイ群落とした。イチイ群落を構成する植物は針葉樹(ヒノキ, ウラジロモミ)と落葉広葉樹(キハダ, イタヤカエデ, ナナカマド)が混交した群落形成をしている。イチイ群落構成種にはブナ=ミズナラクラス域からトウヒ=コケモモクラス域に分布域を有するチゴユリ, マイズルソウ, シノブカグマ, ツバメオモト, サラシナショウマ, ウラジロモミ, サワラなどを認めた。

イチイ群落の高木層を形成する針葉樹と落葉広葉樹は北海道のオンコ林の構成種とよく類似しており次の同位種を有する(Table 1)。なお両群落(イチイ群落と北海道のオンコ林)の共通種はナナカマドであった。

Table 1 イチイ群落とオンコ林の同位種

イチイ群落	オンコ林
<i>Abies homolepis</i> ←————→ (ウラジロモミ)	<i>Abies sachalinense</i> (アカトドマツ)
<i>Phellodendron amurense</i> ←————→ (キハダ)	<i>Phellodendron amurense</i> var. <i>sachalinense</i> (ヒロハキハダ)
<i>Acer mono</i> ←————→ (イタヤカエデ)	<i>Acer mono</i> var. <i>glabrum</i> (エゾイタヤ)

* 東海環境科学研究所